

幼稚園に於ける幼児の個人調査

—一つの試み—

八王子幼稚園長 伊藤 堅 逸

個々の幼児を一層詳しく知るため、又幼稚園と家庭との協力を一層有意義なものとする爲めに私は昭和八年から本年（一年）迄四年間に亘り毎年一回宛幼児の個人調査を行つた。

此の四年間の経験によつて見るに、個々の幼児を知る上に於ても、家庭と幼稚園の協力と云ふ點に於ても甚だ有益なものがあつたやうに思ふ、故にこれをこゝに披露して一般の参考に供したいと思ふ。

先づ調査方法であるが、それについて私は一つの調査票を作つた。左に掲げたものは其調査票の實物である。

個人調査票

第 一				氏 名	年 齢	調 査 種 目		調 査 年 月 日	
4	3	2	1			幼稚園	家庭		
遊ぶ時には快活に遊びますか	自分で出来ることは人手によらず大抵自分でしますか	何か（手先のこと）したがりですか	性質は素直ですか	過度	普通	軽度	過度	普通	軽度

部 二 第							部								
9	8	7		6	5	4	3	2	1	10	9	8	7	6	5
幼稚園を缺席しがちですか	向ふ見ずの亂暴をすることがありますか	年よりもおくられてゐますか	年よりもませてゐますか	人目を盗むやうな様子がありますか	そはくして落付がありませんか	遠慮屋さんで人の前に出るのをはつきしがりますか	よく泣きますか 氣は弱い方ですか	お友達をいぢめますか	意地つべりの方ですか(強情)	言葉の發音は普通ですか	物真似は普通に出来ますか	何かよく質問をしますか	リズムに合つた活動が出来ますか	お話を聞く時には落付いて聞いてゐますか	先生にはなつき易いですか(人に慣れ易いですか)

備考	10	物事に飽きつばい方ですか
----	----	--------------

調査種目は全部で二十であるがこれを二部に分ち、第一部の方には幼児に望ましい種目を並べ、第二部の方には餘り望ましくない種目を並べた。——(此の望ましいとか望ましくないとか云ふのは決して絶対の意味ではない)。そして何れも十種目づゝにしたのである。此の二十種目に限つた事、及びそれを十種づゝに分けたことについては別に深い理由があつたわけではない。併し調査には表からの調査と裏からの調査があるので其兩方面からの調査を取り交ぜたに過ぎない。勿論これについても研究するならば大部やかましい問題も生じて来るに相違ないが、今の所はそれをやかましいものとしな
い極めて簡単な意味で此の調査票が出来てゐるものと承知を願ひたい。十種づゝ二組にしたのは計算する場合の便利の爲であつて其他に理由はない。尤も如何に幼児は云へ、個人が此の二十種目によつて全部調査し得られるものではない。性格方面だけの調査にしても尠くも表裏各々五十種目は必要だと思ふ。それを僅かに二十種に限つたのであるから全體的には大した價値のある結果を見出すことの出来ないのは云ふまでもない。併したまひ全體的な調査價値を望まずとも、此れだけの種目があれば個々の幼児を部分的に觀察する資料を得ることは出来ると思ふ、そして種目を徒らに數多くしても調査が困難になるのみで實際には反つて役立たぬことなる恐れがある。

さてこれらの調査種目について家庭と幼稚園の兩方を調査するのであるが、何づれにも過度普通軽度の三段を設けて、其所に調査の結果を記入するやうにした。過度と云ふのは程度の過ぎたもので、例へば性質でも素直過ぎて困る云ふやうなものがある。然う云ふのを過度の段に記入する。普通と云ふのは説明するまでもなく普通に素直と云ふのである。輕

度と云ふのは幾らか素直だが未だ充分とは云へないものを云ふ。それで種目は皆質問の形になつてゐるからそれを一つづつ始めから順次に家庭では父母又は父母の何れかから、幼稚園では幼児に常に接してゐる受持の保姆に質問をかけてそれに對する返事を受けて「然り」又は「否」の符號を記入して行くのである。

所で此の調査で一番問題となるのは標準のないことである。「性質は素直ですか」と問ふたにしても客観的な何か標準がなければ結果が極めて曖昧であることとなる。成る程厳密に云へば然うに違ひない。併し此の調査はそんな厳密な意味の結果を求めるためではなく、一人の幼児について父母としては平常其幼児をどう見てゐるか、素直だか見てゐるか素直でないか見てゐるか、又幼稚園の保姆としても同じくそうで、日頃此の兒は素直であるかと思つてゐるか、素直でないかと思つてゐるか、それだけのことを調べるなら此の調査の目的は達することになるのである。つまり繰り返して云ふなら父母なり保姆なりが平常日頃其兒をどう見てゐるか、其見てゐる所をそのまま調べることが出来ればそれでよいのである。だから或る意味に於ては此の調査は幼児そのものゝ調査であると同時に幼児の環境の調査とも云へるのである。

所で調査に當りて最も注意を要する點は父母なり保姆なりが幼児について深く考へ込まないやうにすることである。でないに平常の考へから遠く離れて望み通りの返事を得ることが出来なくなる。故に私自身が調査者となつて直接に調査に當り、幼児一人々々について家庭及び幼稚園の兩方から全く同じ方法で、各種目に對する極く單純な返事を求めるやうにした。其時例へば「性質は素直ですか」と問ふたに對し「然うですねー」なき云ひながら考へ込んで返事を遅延するやうであれば其兒は既に普通素直とは云へない者と認めて直ぐ次ぎの項目に移つて問ふやうにした。だから全體の調査が大抵三四分の時間で充分である程調査は簡單に行はれたのである。

調査の方法についての説明はその位にしてこれより調査の結果が数字的にさうなつてゐるかを先づ表示しやうと思ふ、
 其前に調査人員について一言して置くのが順序であらう。

此の調査の對象となつたものは私の幼稚園の幼児で人員は昭和八年度に男十九人女二十五人計四十四人、九年度に男十三人女二十六人計三十九人、十年度に男十二人女十九人計三十一人十一年度に男十七人女十六人計三十三人であつて其延人員は男六十一人女八十六人計百四十七人である。人数は餘り多いは云へない。併し四年間に互る繼續的調査であるために、統計上に表はれる数字の上には又特別な意義があるやうに思ふのである。

では次に各種目の下に集まる数字を表にして掲げて見やう。本来なら各年度の調査を別々に表示するなら繼續的にな

部	第一								調査種目	
	8	7	6	5	4	3	2	1	男	幼稚園
何かよく質問をなすもの	11 18.03	54 88.52	54 88.52	47 77.05	55 90.16	51 83.61	36 59.02	52 85.28%	男	幼稚園
リズムに合つた活動が出来るもの	11 12.79	77 89.53	66 76.74	58 67.44	61 70.93	75 87.21	63 73.26	62 72.09%	女	
お話を聞く時落付いて聞くもの	22	131 89.12	120 81.63	105	116	126	99	114 77.69%	計	
	44 72.13	57 83.44	50 81.97	40 65.57	59 96.72	43 70.49	39 63.93	34 55.74%	男	家庭
	63 73.26	79 81.86	70 81.40	64 74.42	80 93.02	54 62.79	73 84.88	48 55.81%	女	
	107	136 82.52	120 81.63	104	139	97	112	82 55.78%	計	

した此の調査の價値を示すに一層便利ではあるがそれは餘りに錯雜するのでこゝには四年間のものを纏めて見るこゝとする。

これを見るに「性質の素直なもの」は幼稚園と家庭との比較に於て家庭よりも幼稚園の方が多し。幼稚園では一一人であるが家庭では八二人である。これを以て見るに子供は家庭よりも幼稚園で多く素直である云ふことになる。家庭では多く我まが出て素直でないものでも幼稚園に來る家庭

部		二		第							
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	10	9
物事に飽きつばいもの	幼稚園を缺席しがちなもの	向ふ見ずに亂暴するもの	年より遅れてゐるもの 年よりませてゐるもの	人目を盗む様子のあるもの	そはくとして落付のないもの	遠慮屋さんで人前に出るのをはづかしがるもの	よく泣くもの 氣の弱いもの	お友達をいぢめるもの	意地つ張りなもの	言葉の發音が普通なもの	物真似が普通に出来るもの
17 27.87	6 9.84	8 13.11	5 8.21	6 9.84	15 24.59	28 45.90	13 21.31	21 34.43	26 42.62	17 27.87	61 100
11 18.53	5 6.17	2 2.47	14 16.28	3 3.69	14 16.28	21 34.43	17 19.77	21 24.42	16 18.60	32 37.21	83 96.51
28	11	10	19	9 6.12	29	49	30	42	42	49 33.38	144 85.71
18 29.51	4 6.56	12 19.67	5 8.21	6 9.84	21 34.43	26 42.62	17 27.87	37 60.60	10 16.39	44 72.13	61 100
22 25.58	3 3.49	5 5.81	21 24.42	1 1.16	30 34.88	39 45.95	36 41.86	44 51.16	9 10.47	67 77.91	82 95.35
44	7	17	26	7	51	65	53	81	19	111 75.51	143 87.76

次ぎに「何か手先のこまを常にしたがる者」は幼稚園よりも家庭の方が多くなつてゐる。これに「何か手先のこまを常にしたがる者」は幼稚園よりも家庭の方が多くなつてゐる。特に男女を比較して見るに幼稚園でも家庭でも男より女の方が遙かに多くなつてゐる。女兒が男兒よりも多く幼稚園のお仕事に興味あるこまは一昨年(十年)一月號

に居る時のやうに我まゝを出してゐられないので自然素直になるものが多いやうに思はれる。若し然うだますれば幼兒は幼稚園ミ云ふ環境に於て素直であるこまを學ぶのであるから此の意味に於ても幼稚園は幼兒に取つて甚だ大切であるミ云ふこまが出来る。若しこれを男女別にして見るに幼稚園では女よりも男の方に性質の素直のものが多し。家庭では男女殆んど同數である。此れは果して何に基づいてゐるか其説はむづかしいが各年度について見るに十一年度を除いてはいつでも幼稚園では男の方に素直のものが多くなつてゐる。そして家庭では十一年度の外は殆んど同數である。

に發表した統計によつて明かである。

「自分で出来るこゝを自分でする者」は家庭よりも幼稚園が多くなつてゐる。これは勿論幼稚園では一々幼児の世話をし
てやるものがないから、たゞ家庭で何か世話をして貰つてゐるものも幼稚園では止むを得ず自分のこゝは自分でする
やうになるのである。此の點も幼稚園は幼児の爲めに大切な環境である云へる。男女別にして見るに幼稚園では男より
女の方が多くなつてゐるが、家庭では女よりも男の方が多くなつてゐる。これも今直ちに説明をするこゝは出来ないが、
或は何か理由があるかも知れない。

次に「遊ぶ時快活に遊ぶもの」は幼稚園よりも家庭に多くなつてゐる。これは所謂内辨慶があるからで、幼児の性格に
よつて家庭では一人天下ではしやぎ廻つてゐても外に出て他の子供らの中にはいるに別人のやうなものなるものがある
からである。又これは往々にしてある例であるが或る家庭では家庭外に子供を出さないで、家庭内でのみ子供を遊ばせて
置くのがある。然う云ふ家庭に育つた子供はさうしても社會心の發達が遅れてゐる。故に幼稚園に來ても然う云ふ子供は
他の子供と一緒になつて愉快に遊ぶこゝが出来ない。要するに幼児の社會心の發達が未だ充分でない云ふこゝが此の統
計的結果を生ぜしめた原因と見るべきである。故にこの點は幼稚園で充分注意して幼児の社會心の發達を促がすやうにし
なければならぬ。特に今迄家庭内だけで遊んでゐたやうな子供は先づ保姆が其子供の友達となり次第に他の子供と愉快に
遊ぶこゝが出来るやうに導いてやらねばならぬ。男女別にして見るに幼稚園でも家庭でも快活に遊ぶものは男の方が女よ
りも多くなつてゐる。

幼稚園で「先生になつき易い者」は女よりも男の方が多い。先生になつき易い性格は一般に人に馴れ易いのであるから家
庭では其方面から調べたのであるが、家庭では男よりも女の方が人に多く馴れ易いこゝになつてゐる。多分女の兒は家庭

を背景にしてゐる場合多く社會性を發揮する事が出来、男の兒は家庭外に於てより多く社會性の活動の機會を見出すに
るのであらう。従つては社會性の自然的發達から云へば女の兒には家庭的云ふ事が大切であり、男の兒には社會的
ふ事が大切である云ふことになる。家庭と幼稚園とに於て、先生又は一般に人に馴れ易いものは其數に於て殆んど同數
である。

「お話を聞く時落付いて聞いてゐるもの」は家庭でも幼稚園でも全く同數で、これは幼兒が如何に話好きであるか云ふ
證據と見る事が出来るかも知れない。幼兒は好きな話を聞く時には家庭であらうが幼稚園であらうが場所の如何も、話す
人の如何も問はないで聞き込むのである。これは全體の八十一・六三%である。

人間の生活はリズムカルなものである。それ故、外部から刺戟して來るリズムに正しく乗るか否かは幼兒の身心の發
達に尠からざる影響を與へる。故に種目の一つにこれを加へたのであるが、「リズムに合つた活動の出來ないもの」は極め
て僅少で、大部分はそれが出来る。即ち幼稚園では八九・二%、家庭では九二・五%である。家庭での觀察も幼稚園で
の觀察も殆んど差がない。

所が「何かよく質問をするもの」は幼稚園と家庭とは大變な相異を示してゐる。幼稚園では僅かに二十二二人であるが家庭
では百〇七人になつてゐる。これはさもあるべきで、其の一つの理由は幼稚園では人數が多いので個人的に幼兒が先生に
ゆつくり物を質してゐる機會が少ない云ふこと、二には私の幼稚園では自由主義の保育をしてゐるため保母は始めから
終りまで全體の爲めに大變忙がしくしてゐる云ふこと、第三の理由は幼稚園は幼兒に取つて刺戟の頻繁な所であるから
幼兒の頭に質問を構成する餘裕が乏しい云ふこと、此の意味に於て幼稚園は家庭よりも落付きのない所である。今一つ
の理由としては質問を構成する資料は幼稚園よりも家庭の方に豊かにあるかとも思はれる。幼稚園は型の如く毎日繰り返

されて行く。そして幼稚園に来るなら全く幼稚園云ふ小さな範圍に閉ぢ込められてしまふのである。で幼稚園には變化が少ない。所が家庭はその所が大變異つて單純のやうではあるが一面から見るに變化性に富んでゐる。こんな理由で親には多く質問するが先生には餘り質問をしない事になる。この點に就いては幼稚園として大に考究しなければならぬのではあるまいかと思ふ。

次に物真似であるが、「物真似が普通に出来ない者」は低能か低能に近い所謂劣等な智能者である。此の種のもは家庭でも幼稚園でも極く僅か女の兒にあるのみで男の兒には一人もない。觀察は家庭に幼稚園に殆んど同じである。

「言葉の發音が普通の者」は幼稚園で八五・七一、家庭で八七・七六になつてゐて、家庭の方が少し多いのみである。幼稚園の保育課目に言葉の發音が置かれてあるだけに發音の未だ普通に至らないものが幾分か有るわけである。そしてこの發音が不充分である者は家庭幼稚園共に男の兒に多くある事を示してゐる。

以上で調査種目の第一部を終つた。續いて第二部に移つて見やう。第一に「意地つ張りな者」であるが、此れは最初の素直な者と同様さう云ふものが意地つ張りであるかについては判斷に困難なものがある。併し前にも述べたやうに、此所で寧ろ判斷に俟たないで日頃の心持からの返事を尊重するのであるから、其積りで調査したのであるが數に於て幼稚園よりも家庭に於て遙に多くなつてゐる。即ち幼稚園では三三・三三％であるに對し家庭では七五・五一％になつてゐる。これは性質の素直なものが幼稚園に多く家庭に少ないと同じ理由による事は明かである。男女を比較するに家庭でも幼稚園でも男より女の方が多くなつてゐる。

「お友達をいぢめる者」は幼稚園に於て四二人あるに對し家庭では僅かに十九人である、親は我兒が他の者にいぢめられるに考へて他をいぢめるものは考へないのが多い。幼稚園で他の者をいぢめるのは多くは家庭に於て或は近所の友達仲間に

於ていぢめられてゐるものが多い、然う云ふ所から親は我兒はいぢめられるものさばかり思つてゐるのかも知れない。我兒を憐れむ親心はたさへいぢめてゐても寧ろいぢめられてゐるものにしたいたいのが普通である。それ故に他をいぢめることは考へないでいぢめられてゐる云ふのであらう。併し幼稚園さしては今少し親の方で事實を知つて欲しいと思ふ事さしばしである。男女を比較して見るに幼稚園家庭何れに於ても女より男の方が多い。

次に「氣の弱いもの」を見るものは幼稚園より家庭の方が倍も多くなつてゐる。我兒が他のものをいぢめてゐてもいぢめられてゐるを考へる。親の方で我兒の性情を弱いものを見た所で少しも不思議にするに足らない。寧ろ然うあるべき云はねばならぬ。「よく泣く」云ふのは氣の弱い云ふのは幾分異つて性的云ふよりか習慣的云ふ方がよいかも知れない。だからよく泣くものが氣の弱いものだとも云へないし、氣が弱いから必ずよく泣くものともままつてない。併しこれも幼稚園よりか家庭の方に多い。それは家庭では甘やかされてゐる爲に見てよからう。今此の二種目を男女別にして見るに、氣の弱い者もよく泣く者も女より男の方に多く、家庭では氣の弱いものは男の方が多くなつてゐるが、よく泣くものは女の方が遙かに多くなつてゐる。

次に「遠慮屋さんで人前に出るのをはつかしがるもの」は幼稚園よりも家庭の方が多い。幼兒の中には親や兄弟のゐる所では遠慮屋さんも幼稚園へ來ては全く變つて遠慮さんの臭ひもしないものがある。男女を比較して見るに殆んど同じである。

次に「そはくして落付かぬもの」であるがこれは幼稚園より家庭の方に遙かに多くなつてゐる。こゝに「そはく」云ふのは落付かない事を強く示したものであるから、其強い意味に於いて落付かないのは幼稚園よりも家庭に多い云ふ事になる。或る意味に於て家庭は幼稚園よりも落付くによい場所である。併しそれだけに又強度の落付きのないものが

家庭の方に多くあるもの云へるであらう。これを男女別にすれば幼稚園では女より男の方に多く、家庭では殆ど同じである。

「人目を盗むやうな様子のあるもの」は極めて僅かであつて家庭の方で四・七六%、幼稚園の方で六・一二%である。家庭よりも幼稚園の方が少し多くなつてゐる。男女別にして見るに家庭でも幼稚園でも女より男の方が遙かに多い。

次に「年よりもませてる者」であるが、これは幼稚園よりも家庭の方に多くなつてゐる。家庭では多く兄弟間で比較されるが幼稚園では其幼稚園の全部の幼児の中で比較するから親の方でませた子供と思つてゐる者も幼稚園では案外並者なまとせられることがあるであらう。男女を比較して見るに家庭でも幼稚園でも男より女の方が遙かに多くなつてゐる。幼少な頃は男よりも女の方が智慧の進みが早いからであらう。年よりもませてるか云ふ質問に反対に年よりも遅れてゐるか云ふ質問も並んでゐるが、此れは最初のカードにはなく、中途から補充したので數が半端であるから表には表はさないことにした。

其次ぎに「向ふ見ずの亂暴をする者」であるが、これは又家庭の方が多くなつてゐる。外ではおこなくとも兄弟間では随分亂暴をするものがある。故に當然幼稚園よりも家庭の方に亂暴なものが多いわけである。亂暴をするものは家庭でも幼稚園でも男の方に多い。

病氣でもないのに退氣がつて幼稚園を缺席するものは幼稚園の方に多くなつてゐる。此れは幼稚園の方では幼児が病氣でもないのに休んだとすれば、幼児自身が来るのを退氣がつて休んだものと單純に判斷しがちであるからである。實際は幼児自身は來たくて泣いたのを親の方で無理に休ませた云ふ場合もある。

最後に「物事に飽きつばいもの」は家庭の方に多い。そして家庭でも幼稚園でも女よりも男の方に飽きつばいものが多く

なつてゐる。

以上で大體先きに掲げた表についての觀察を終つたのであるが、今こゝにそれを纏めて見るこゝ

1、幼稚園より家庭の方に多きもの

- 一、何か手先きのことをなしたがるもの
- 二、遊ぶ時に快活に遊ぶもの
- 三、何かよく質問をするもの

四、意地つ張り

- 五、氣の弱いもの、よく泣くもの

六、遠慮屋さんで人前に出るのをはづかしがるもの

2、家庭より幼稚園の方に多いもの

- 一、性質の素直なもの

- 二、自分で出来る事は大抵自分でするもの

- 三、お友達をいぢめるもの

3、両方ほぼ同程度にあるもの

- 一、先生になつき易く、人に慣れ易いもの

- 二、お話を聞く時落付いて聞いてゐるもの

- 三、リズムに合つた活動の出来るもの

4、幼稚園で女より男に多きもの

- 七、そは／＼して落付きの無いもの

- 八、年よりもませてゐるもの

- 九、向ふ見ずに亂暴をするもの

- 十、物事に飽きつばいもの

- (望まじきもの三、望ましくないもの七)

- 四、人目を盗む様子のあるもの

- 五、幼稚園を缺席しがちなもの

- (望まじきもの二、望ましくないもの三)

- 四、物真似が普通に出来るもの

- 五、言葉の發音が普通なもの

- (望まじきもの五、望ましくないもの〇)

一、性質の素直なもの

二、遊ぶ時快活に遊ぶもの

三、先生になつき易きもの

四、お話を聞く時落付いて聞いてゐるもの

五、何かよく質問をするもの

六、物真似が普通に出来るもの

七、言葉の発音が普通なもの

八、お友達をいぢめるもの

5、幼稚園で男より女に多きもの

一、手先のことをなしたがるもの

二、自分のことを自分でするもの

三、リズムに合つた活動の出来るもの

6、家庭で女より男に多きもの

一、自分のことを自分でするもの

二、遊ぶ時快活に遊ぶもの

三、リズムに合つた活動の出来るもの

四、物真似が普通に出来るもの

五、言葉の発音の普通なもの

六、氣の弱いもの

九、氣の弱いもの、よく泣くもの

十、遠慮屋さん

十一、それはくして落付きのないもの

十二、人目を盗む様子のあるもの

十三、向ふ見ずに亂暴するもの

十四、幼稚園を缺席しがちなもの

十五、物事にあきつばいもの

(望ましきもの七、望ましくないもの五)

四、意地つ張り

五、年よりもませてゐるもの

(望ましきもの三、望ましくないもの二)

七、人目を盗む様子のあるもの

八、亂暴をするもの

九、幼稚園を缺席しがちなもの

十、物事に飽つばいもの

(望ましきもの五、望ましくないもの五)

7、家庭で男より女に多きもの

一、手先きのことをしたがるもの

二、人に慣れ易いもの

三、何かとよく質問をするもの

四、意地つばり

性質の素直なもの、お話を落付いて聞いてゐるもの、そはくして落付きのないもの等は家庭に於ては殆んど同程度になつてゐる。

それで更に此れを一つの表に纏めて見るに次ぎの如くなる。

望まじきもの (第一部)		家庭	男	女	幼稚園	男	女	雙方に 同程度	男女
望まじくないもの (第二部)		7	5	4	3	5	2	0	1

によつて左の如く云ふ事が出来る。即ち、

家庭に於ても幼稚園に於ても望まじきものよりも望まじくないものゝ方が多く現はれてゐるが、割合からすれば家庭よりも幼稚園の方に望まじくないものが餘程少くなつてゐる。家庭で望まじくないものは7/8であるが、幼稚園では3/2である。若し兩方同程度の5を雙方に加へるに、家庭は7/8となり、幼稚園は3/7、望まじくないものは雙方共に一層少くなつて望まじきものゝ方が多くなる。併し幼稚園の方が家庭よりも遙かに多くなつて来る。それ故、幼児に現はれる望まじき傾向から見て右の表が示してゐる數字が家庭より幼稚園の方が教育的によい云ふことを示してゐる云ふことにな

五、よく泣くもの

六、遠慮屋さん

七、年よりもませてゐるもの

(望まじきもの三、望まじくないもの四)

勿論一概に云ふ事は出来ないが、若し私の調査した所が幾分研究的價値をもたらす方法であつたならば上の表

る。男女の比較に於て見ても此れと同様にして、家庭では望ましきものと望ましくもないものと殆んど同様に現はれて、唯僅かに男の方に望ましきものが多いのみである。

所が幼稚園の方では男女何れにも望ましきものゝ方が遙かに多く、そして男女殆んど同程度である。故に此の方から見ても幼稚園は男女何れに取つても家庭より教育的によい環境であること云へることになるであらう。

此の調査は色々の意味に於て甚だ有益なものがあり且つ其利用範圍も相當にあることを経験したのである。それで其の有益な點及び利用の方法について一、二述べて此の稿を終ることにする。

一、先づ第一此の調査によつて家庭の幼児と幼稚園の幼児とは同じ幼児でも異つてゐること云ふ事を明かに教へられたのである。異つてゐる程度は様々であるが、兎に角異つてゐる。稀れには家庭でも幼稚園でも餘り異はないものもないではないが、そう云ふのは殆んどないこと云ふてもよい。そして家庭で良いもの、必ずしも幼稚園で良いものでもない。其反對に家庭で悪いもの必ずしも幼稚園で悪いものでない。ではさう云ふものがさう云ふやうに變るかこと云ふ事であるが、此れは尙研究しないこと直ちに解答する事はむづかしい。併し家庭で餘り嚴格に扱はれてゐるもの、盲目的な愛に溺れてゐるもの、獨り兒、母親育ち等は家庭で良く幼稚園では悪いやうである。

内でのよい者が外で悪く、外で良い者が内で悪い、然う云ふ傾向は大人にも認められることで、此れは一つの性格上の事柄こと云へるかも知れない。人間は内で満されなければ外で満さうとし、外で満されなければ内で満たさうとする。それが積り積つて一つの性格を築き上げる事になるのであるが、内と外との距離を減ずることによつて圓滿な人格が出来上る事に

なる。路傍の人と家庭の人は違ふ。併しその違ふ所にも尙統制が取れて行く、そこに人格の働きがあるわけである。

兎に角大人に現はれる性格上の傾向は既に幼児に於て認められるのである。こゝには家庭と幼稚園の協力を要する點が多分にあると思ふ。父母は多く家庭に於ける我が兒を知つて幼稚園に於ける我が兒を知つてゐない。それでは幼稚園教育の効果が多く期待出来ないことになる。家庭教育と云ふ點だけから考へても父母がもし外に於ける我が兒の實際の生活狀況を知らないと家庭教育そのものも不充分を免かれない。だから父母は外に於ける我が兒の生活狀況を知らねばならぬ。幼稚園にしても幼稚園に於ける幼児の生活の實際を父母に知らせて家庭の協力を求めなければならぬ。

二、所で幼稚園に於ける幼児の實際を其父母に知らせる事は仲々容易な事ではない。良い事は幾らでも云へるが悪い事であると然う容易く口にする事は出来ない。例へば他のものをいぢめて困るに云ふやうなものがあつて、それをそのまま其親に知らせたとしても親としてはそれをさうしても信じないかも知れぬ。そして反つて保姆の方を恨んだり、幼稚園に信頼を置かなくなるかも知れぬ。そんなわけであるから仲々幼児の悪い事は父母には云へない。併し父母としては我が兒が幼稚園で果してさうしてゐるだらうか、良い兒か、悪い兒かを始終心に懸けてゐる。そして時には我が兒の動靜を窺ふべく幼稚園に顔を出すのである。それでゐて眞實のこゝが父母には話せないで、「お子様は元氣で何かさよくやつていらつしやいます」なごお座なりの挨拶を保姆は父母に對してしてゐるのが多い。これでは肝腎の所で家庭との協力は出来ない事になつてしまふ。

こゝに此の調査カードの大きな働きがある。此の調査カードには幼稚園と家庭との雙方から調査するやうになつてゐる。何づれから先きに調査してもよいのであるが雙方の調査が終了した後、家庭に「幼稚園では御宅のお子様をさう見てゐるかをお知らせします」と云ふて、カードのまゝを知らせてやるのである。その時はたゞ「お宅の御子様はお友達を

いぢめます」こか「人目を盗む様子がありません」こか云ふたにしても父母の感情を害する事はない。

つまりカードに物を言はせるのであつて、その時は極めて圓滑に幼稚園の云はんミする所が父母に通ずることになるのである。そして若し我が兒に望ましくない、特にお友達をいぢめるこか、人目をぬすむ様子があるこか云はれるなら、父母は一層幼稚園ミ協力して我が兒の缺點を矯正しなければ云ふ心持になるのである。幼稚園から遠ざかるのではなく、幼稚園に近づいて頼つて來るのである。それ故に私はかつて幼稚園ミ家庭ミの協力ミ云ふ事が問題になつた會合に於て此の種のカード——此の種ミ云ふのは調査種目はさう云ふやうに変更してもよいし、又其數も幾つか多くしてもよいからである——を使用する事をすゝめた事がある。

確かに以上述べたやうな意味に於て此の調査カードは大に役立つものがあると思ふ。

三、私の試みた此の調査に於て、調査種目の選び方についてはまだ研究の餘地があると思ふ。若し調査種目の選び方が宜敷きを得て、もつミ科學的であり研究的であつたなら、其結果はもつミ效果的であると思ふのであるが、併し右に擧げた二つの點は既に此の調査に於て明かに認め得る收穫である。此の上に若し此の調査票を一枚々々手にして個々の幼兒を環境ミ思ひ合せて研究するなら、そこには又保育上適切なる知識を看出すこゝが出来らうであらう。我々は多くの場合一般的知識をもつて全體に適用してゐる。併しそれだけでは無論完全な保育は出來ない。さうしても個々別々に幼兒を理解しなければならぬ。それには斯る調査も勢ひ必要になつて來るのである。

自分で出來るこゝを自分でせず、兎角他に頼りがちなものがあれば其原因ミなつてゐるものを更らに進んで調べ、其原因ミなるべきものを除去しなければ知能の發達に影響するばかりでなく心理的な全般に互つて悪影響を及ぼすこゝなる。遊ぶ時に不活潑なものがあるなら、何故不活潑なのか、社會心の發達が遅れてゐる爲めか、又は身體の健康がよくな

い爲めか、何かそこに原因がある筈である。落付きのないものにはどうしたら落付かすこゝが出来るかを考へ、リズムに合つた活動が出来ないものには適當な練習を特に與へなければならぬ。言葉の發音の不充分なものには特に發音の稽古をさせ、小學校に入學する迄に普通に發音が出来るやうにしてやるこゝも大切なこゝである。お友達をいぢめるものがあるれば、いぢめるのは何によるか、をよく調べて見る必要がある。何故ならば其原因は甚だ複雑してゐるからである。いぢめ方なき精密に觀察し、遊び友達、兄弟間の事情、父母の取扱ひ方なき調査して適當なる處置を講じなければならぬ。いぢめるものゝ中には單に友達が欲しくて、友達を求める方法を誤つていぢめてゐるものもある。又友達がいぢめてゐるのを見て單に模倣してゐるものもある。勢力表示のために弱いものいぢめをするものもある。からかひのためにいぢめてゐるものもある。復讐心からいぢめるものもある。其他もつゝ惡性のもも種々ある。云ふやうなわけでこれには種々なる原因があるのであつて、決して一樣に見るべきものではない。此の外意地つ張りなもの、氣が弱いもの、よく泣くもの、人目を盗む様子のあるもの、物事に飽き易いもの等何れも其原因異なるべきものがある筈であるから、其原因を早く看出して其れを除去するこゝは保育上大きな任務であると思ふ。

調査は往々單に調査で終つてしまふ事がある。それでは折角の調査も全く無意味なものとなるのであるが、斯うして個々の幼児についての理解を深めるこゝが出来、望ましくない傾向の原因を取り除き、望ましき方面を益々助長せしめるやうにするなら、斯る調査の意義は甚だ大なるものがあると思ふ。